



福岡県行政書士会 各部・委員会紹介

第12回 研修部

2026年10月発行
福岡県行政書士会
広報部

福岡県行政書士会は、行政書士の業務の改善や進歩を通じて、国民の皆様のお役に立てるよう日々業務に取り組んでいます。こうした会の運営を支えているのが、所属する行政書士たちです。本業と並行しながら「会務」を担い、会の円滑な運営や社会貢献活動の推進に力を尽くしています。

第12回は、行政書士会の研修を担う「研修部」取材してきました。研修部では、様々な研修の企画・運営を行うほか、研修後の振り返りや改善にも取り組んでいます。また、会員が段階的に学べるよう研修の体系化を進めるなど、会全体の研修を支える役割を担っています。今回は、研修部の活動の実情ややりがい、今後の取り組みについて伺いました。

研修部

【部長】 佐々木 勝朗

【副部長】

盛山 義隆	手島 美菜
村里 豊伸	藤 美央
大野 由麻子	犀川 千春
三角 愛	河井 涼子
小野 嘉納	



～研修部は行政書士の学びを支え、会全体の成長を後押しする推進役～

広報部（以下「広」）：本日はお忙しい中、取材に応じてくださいありがとうございます。まずは、皆様の研修部での担当・役割を教えてください。

佐々木部長（以下「佐」）：私の主たる役割はマネジメントです。研修部全体がやるべきことを見て、スケジュールリングや担当者決めをしています。とはいっても足りないところだらけで、副部長の皆さんにはいつも助けてもらっています。

副部長にはそれぞれ担当の業務部を決めてもらい、研修の運営や分析がスムーズに進むよう、PDCAシート（注1）等を通してコミュニケーションをとってもらうようにしています。

各業務部の担当は、公安運輸部（佐々木）、建設環境部（犀川・小野）、農林開発部（大野・村里）、国際渉外部（藤・犀川）、市民法務部（手島・大野・村里）、事業法務部（三角・小野）です。（敬称略）

その他にも、福岡地区の副部長には入会式での研修案内をしていただき、福岡以外の副部長には、アーカイブ動画の編集やクラウドストレージの整備をお願いしています。

広：それでは、研修部の目的や、どのような役割を担って活動されているのかを教えてくださいませんか。

佐：研修部では、会員の法律知識や実務能力、資質の向上を図るため、研修の企画立案、計画作成、実施などに取り組んでいます。各業務部が主催する研修を取りまとめるとともに、研修の土台を整え、より組織的に研修を行っていくことを目指しています。また、各業務部の研修運営をサポートするほか、研修後の評価や振り返りを行い、改善につなげています。

広：ありがとうございます。では、各業務部が行っている研修のほかに、研修部が独自に行っている研修についても教えてください。

佐：独自研修としては、毎年実施している司法研修や入会者研修、今年12月に予定しているハラスメント研修などがあります。

現在、研修部で特に力を入れているのが「研修の体系化」です。各業務部で基礎研修動画を作成しており、すでに公開しているものもありますが、これからも順次公開する予定です。今後は、基礎研修動画で知識を身につけた上で、会場での研修受講又は同時配信のWEB研修受講により、知識をブラッシュアップし、その後、各業務部の専門的な研修の受講へつなげていくという流れを考えています。



佐々木部長

広：「研修の体系化」を進める上で、どのようなことを大切にされていますか。

佐：会員の皆さんが「研修を受けて、知識や実務能力が段階的に身についている」と実感できるようにしたいと考えています。また、実務能力の向上だけでなく、行政書士としての資質や職務倫理を身につけることも大切です。

さらに、特に新しい会員が孤立しないよう、研修を通じて得られる横のつながり、縦のつながりも大切にしています。



大野副部長

広：研修部の特徴について教えてください。また、研修部はどのような雰囲気で開催されているのでしょうか。

古城副会長（以下「古」）：県内四地区すべてに研修部の副部長がいるようにしたかったので、遠方だから、子育て世代だからという理由で会務に参加できないことがないよう、無理なく参加できる体制づくりを意識しています。それが、役割分担にも表れていると思います。また、研修部内は、和気あいあいというより、それぞれが真剣に考え、意見を出し合いながら活動しています。緊張感がありますが、しっかりと意見を言える雰囲気です。

広：他の部や委員会とは、どのような場面で連携や協力をされているのでしょうか。

佐：一番は、研修の体系化にご協力いただいています。

大野副部長（以下「大」）：各業務部との連携では、PDCAシートを活用した研修分析も行っています。研修部で総括した内容を各業務部にフィードバックし、新たな気付きや改善点を共有して、次の研修に活かしてもらっています。告知の方法や研修タイトルなどについても分析し、できる限り具体的な形でフィードバックしています。

広：研修後のアンケートは、よりよい研修につなげるための大切なものですね。受講された皆さんには、今後の研修の充実のためにも、ぜひ率直なご意見をお寄せいただきたいと思います。では、今後、研修部として取り組んでいきたいことや、会員の学びをより充実させるために考えている新たな取り組みについて教えてください。

佐：今後取り組みたいのが、各業務を横断的に学ぶことができる「受講モデル例」の提案です。各業務部がそれぞれ研修を行っているため、どうしても縦割りになりがちですが、研修部は少し離れたところから全体を見ることができます。例えば、「この業務を行うのであれば、この研修とこの研修を受けておくと、より業務が進めやすくなるのではないか」といった形で、

業務部をまたいだ研修の組み合わせを提案できればと考えています。業務歴の浅い方などには研修同士のつながりが分かりにくい場合でも、研修部から関連する研修を示すことで、会員の皆さんがより効果的に学べるようにしていきたいと思っています。



盛山副部長



村里副部長

広：研修部の活動を通じて「やっていたよかった」と感じる瞬間や、やりがいについて教えてください。

佐：研修に参加された方から「ありがとうございました」と言っていたときは、やはり嬉しいですね。特に入会者研修では懇親会もありますので、受講者の皆さんといろいろな話をしながら感謝の言葉をいただくと、やっていたよかったと実感します。

大：担当している業務部の研修を受講された会員の皆さんから高い評価をいただいたときは、率直に嬉しいです。また、受講者数が多かったときもやりがいを感じます。前回の入会者研修では、50名近くと、多くの会員の皆さんに受講していただきました。大変なこともいろいろありますが、副部長同士も、それぞれの場面で助け合いながら取り組んでいます。

盛山副部長(以下「盛」)：私がやりがいを感じるのは、研修部の活動を通じて、様々な方と知り合えたことです。個人事業主なので、普段は知り合いを増やす機会がなかなかありませんが、研修部の活動を通じて多くの先生方と話すことができました。いろいろな考え方に触れることで、「こういう考え方もあるんだ」と気付かされることも多く、人とのつながりの大切さを改めて感じています。

村里副部長(以下「村」)：私は、入会者研修を通じて、新しく行政書士になった方々に様々な業務を知ってもらえることに意義を感じています。入会式では、「入会者研修にはぜひ参加してください。入会者研修に出席しないと損しますよ」と参加を呼びかけています。

入会者研修では、各業務部の部長から、それぞれの業務や研修体系について直接話を聞くことができます。また、会長や副会長と、あるいは新しく入会された方同士が交流する機会もあります。実際にアンケートでも、「入会者研修でいろいろな話を聞いてみて、これまで考えていなかったような業務分野の面白さに気付き、これから取り組んでみたいと思った」という声がありました。こうした声をいただくと、入会者研修をやっていたよかったと感じます。入会式、入会者研修、そして新しい研修体系へとつながる一連の流れが形になってきたことを、嬉しく思っています。

広：研修部に限らず、県会の業務（会務）に携わることで、どのようなメリットや得られるものがあると感じていますか。また、これから会務に携わってみようと考えている会員の皆さんに、伝えたいことがあれば教えてください。

佐：会務に携わることで、様々な方と知り合えることが大きなメリットだと思います。私は筑豊支部ですが、会務に携わるようになって、筑豊以外の多くの先生方ともつながることができました。また、様々な情報が早く入ってくることも、会務に携わるメリットだと思います。やる気のある方には、ぜひ積極的に会務に携わっていただきたいですね。

大：会務に関わることで、県会の組織や体制を知ることができます。それぞれの部や委員会がどのような役割を担っているのかを知ること、自分が何をすべきなのかも明確になり、それがメリットにつながっていくのではないかと思います。

盛：私も、県会がどのような活動をしているのか、以前はよく分かっていませんでした。会務に携わるようになって、それぞれの部がどのような仕事をしているのか、また、それぞれに大変なことがあることも分かるようになりました。会務に時間を割く必要もありますが、その一方で、様々な先生方と知り合うことができ、いろいろな考え方に触れる機会も増えました。仕事で困ったときに相談できる先生がいることも、大きな支えになっています。

村：人脈が広がることは、会務に携わる大きなメリットだと思います。また、研修部は入会して間もない会員でも活躍できる部だと思います。研修部の所属だというと「大変ですね」と言われることもありますが、やる気があれば、行政書士としての経験が浅くても活躍できるチャンスがたくさんあります。会務に興味のある方にはぜひ、研修部の扉を叩いていただきたいと思います。

広：では最後に、研修部を代表して佐々木部長よりメッセージをお願いできますか。

佐：行政書士法第1条では、行政書士の使命として、「行政書士は、その業務を通じて、行政に関する手続の円滑な実施に寄与するとともに国民の利便に資し、もって国民の権利利益の実現に資することを使命とする。」と定められています。その使命を果たすためには、行政書士一人ひとりが必要な知識や能力を身につけていくことが大切です。

研修部としても、そのための一助となれるよう、会員の皆さんの能力向上につながる研修に取り組んでいきたいと思っています。

一般の方には、行政書士は日々、研修を通じて知識や実務能力の向上に努めていることを知っていただきたいと思います。行政書士として、皆さんのお役に立てるよう日々研鑽を重ねていますので、何かお困りごとがありましたら、安心してご相談いただければと思います。

広：本日はありがとうございました。

（注1）PDCAシート…Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）の頭文字。研修部では、各業務部とPDCAシートを作成し、研修の概要やねらい、実施後の結果、改善点などを記録・分析して、次の研修の充実につなげています。

～広報部あとがき～

今回の取材を通じて、普段、受講している研修の裏側に、研修部の皆さんのさまざまな工夫と努力があることを知りました。研修の体系化やアンケート、PDCAシートを活用した継続的な改善に加え、会員同士のつながりを大切にする姿勢も印象に残りました。取材を終えて、研修部が会員の成長を後押しし、行政書士としての資質や実務能力の向上を支える重要な役割を担っていることを改めて感じました。

（取材日2026年9月17日）



全体会議での挨拶の様子